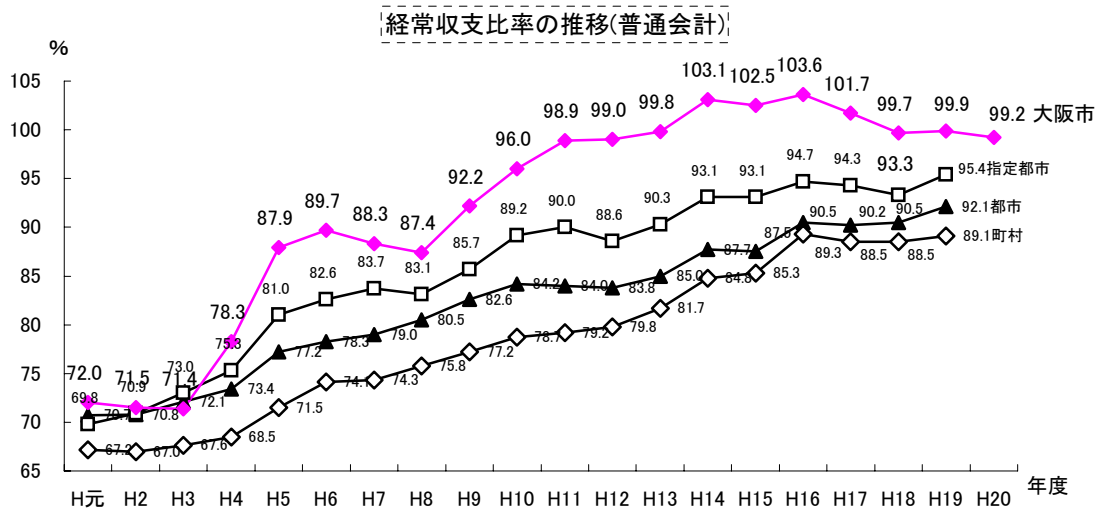


② 経常収支比率

- 経常収支比率とは、地方税、地方交付税、譲与税・交付金などの経常的な一般財源が、どの程度経常的な経費に充てられているかを示す指数で、財政構造の硬直度を表すものさしとされているものです。
- 経常収支比率が高いということは、義務的経費以外に使える財源に余裕がないことを示し、財政構造の弾力性が低いこととなります。
- 本市においても、歳出削減に努めているものの、地方税などの一般財源が大幅な減少となっているなか、扶助費などの増大により、一般財源の大半をこのような義務的な経費に充当せざるをえない状態となっています。



資料：平成21年度版総務省地方財政白書〔平成19年度の地方財政〕

- 本市は、人件費や扶助費が高いため、経常収支比率は指定都市のなかでも高い数値となっています。

